

対馬暖流は沿岸寄りと沖合を北上 対馬暖流の流量は平年の2割増しで多い 今後の沿岸水温は平年よりも高めで推移

2021年6月上旬に実施した日本海定期観測の結果をお知らせします。

対馬暖流は松前のはるか沖合から東進して本道に近づき、一部は沿岸寄りを北上し、他の一部は津軽海峡へ流入しています(図1c)。対馬暖流はせたな沖から沿岸寄りと沖合のルートに分かれて北上しています。岩内湾では、規模は小さいですが、時計回りの渦が形成されています。また、留萌沖では沖合冷水(指標:100m深水温5℃以下)が分布し、その渦を取り巻くように暖流が反時計回りに流れています。対馬暖流の北上流量は約1.4~1.6Sv(1Sv=10⁶m³/s)で、例年の2~3割増となっています(6月流量の平年値は1.2Sv)。

50m深水温は対馬暖流が流れる沿岸寄りで10℃以上になっており(図1a)、平年よりも2~3℃高くなっています(図1b)。また、沖合冷水が分布する海域では、水温は平年よりも約1℃低くなっています(図1b)。

余市前浜水温は5月上旬では「平年並み」ですが(※1)、6月中旬から7月上旬の気温は平年よりも高い予報となっていますので(※2)、沿岸水温は「平年並み」よりも高めで推移することが予想されます。



※1 <https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyau/suion/index.html>

※2 気象庁HPより1ヶ月予報: <http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>

余市前浜水温 気象庁1ヶ月予報

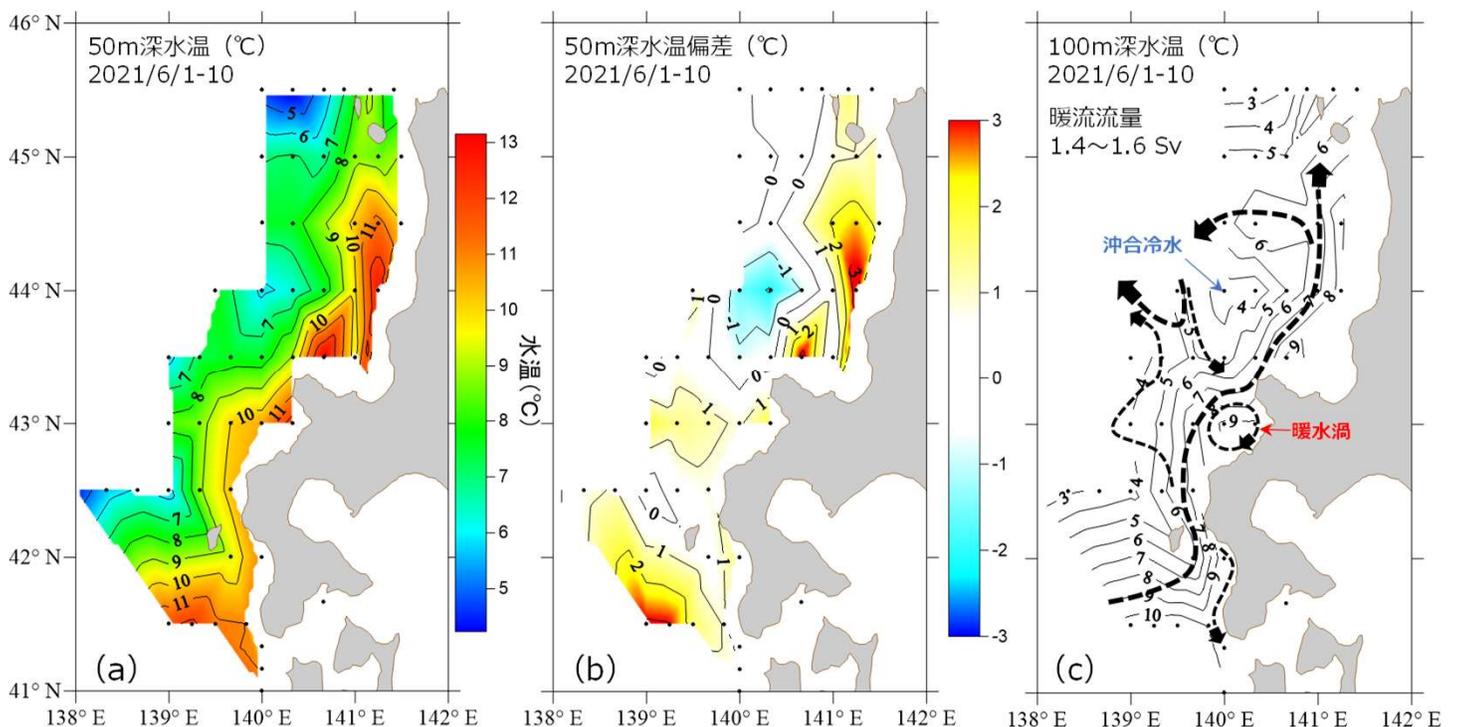


図1 2021年6月上旬における (a) 50m深水温 (b) 50m深水温偏差の水平分布、(c) 100m深水温の水平分布と対馬暖流の流路。水温偏差は過去30年(1989年~2018年)の平均値から算出。流量の単位はSv(=1×10⁶m³/s)。